

9月セミナーを9月21日(土) 13:30~15:30に開催しました。

会場 愛知文教大学 201教室

テーマ 「子どもが自らの価値観を語る道徳授業」

授業者 蒲郡市立蒲郡東部小学校 大浦 彩 先生

講師 愛知東邦大学 丹下 悠史先生

本日のセミナーで学んだ中で重要だと思ったことは、「正解のない授業、道徳」教師の思いが強くでてしまうと、子どもはその考えに寄り添ってしまう傾向にあると思いました。子どもが自ら考えるような言葉の引き出しを大切にしていこうと私自身思いました。

私は、セミナーに初めて参加させていただきました。大変、学ぶことが多く勉強になりました。子どもの考えを引き出すために教師は、 試行錯誤をしなければいけないとだこのセミナーを通して思いました。来年から、教職に立つ身として、子どもの考えをもたせる授業をしていきたいと思いました。

本日のセミナーで学んだ中で重要だと思ったことは、「資料で」教える、「資料を」教えるです。

授業者が仰っていた、手品師の「方法に走らない」で「後悔するか」に焦点を当てるという考え方は、とても大切だと思いました。ビデオに出てくる子供たちの表情も良く、一所懸命自分の考えを発言していました。いろいろな考えが授業で表れることは、道徳の授業において大切なことだと思います。また、「後悔するか」と考えさせるような発問について授業者からの素晴らしいアイデアで、自分自身考えることができ良い学びになりました。

道徳の授業の難しさを痛感させられました。ありがとうございました。

本日のセミナーで学んだ中で重要だと思ったことは、大変なことですが丁寧に授業記録を取り、子どもの反応を後で検証できるようにしておくことです。

子ども達の熱心な意見交流はとても素晴らしかったです。男子の発言が多い中で時々ある女子の発言はキラリと光っていました。発言は繋がっていましたが、その中の一人の発言に対して他の児童はどう聴いたのか、グループで話し合うなどの場があるとさらに深まったのではと思いました。また、提示された文章だけをもとに掘り下げるとするのはやや苦しいように思いました。文章をもとに、子どもの身近なエピソードに落とし込んでの議論があると、よかったのかもしれません。考えるほどに難しい課題でしたが、子ども達はとてもよく考え、ひとり残らず頑張っていたと思います。それだけに、発言した児童以外の子たちがどんなことを考えていたのか、グループ等の発言の場があるとまた違った展開が生まれたのかも知れません。学ぶことが多くあった授業でした。ありがとうございました。

本日のセミナーで学んだ中で重要だと思ったことは、自我関与に着目した分析です。

自我関与という視点からの4~7分節の分析は見事でした。丹下先生の道徳授業への分析が深まっていることを頼もしく感じました。

井上治郎は、個人的にも小学校から中学校が変わって、授業をどのように変化、進化していくべきかという点で、参考になった一人で、懐かしく思いました。

ただ、自分を語らない(語れない)生徒が多い中学生が、資料についてなら主人公に仮託して自己を語れるのだ、という井上の提言は、中学校の道徳授業を考える上で、私には大きな光

明でした。

一つ気になったのが、子どもたちの座席で、コの字あるいはグループだったら、もう少し子ども同士の影響がみられたのではないかと感じられたことです。

本日のセミナーで学んだ中で重要だと思ったことは、子どもの価値観に気づくです。

大浦先生・丹下先生、貴重な授業に基づいたセミナーをありがとうございました。

のびのびと自分の考えを語れる、授業の中の子どもたちの姿に感銘を受けました。これは大浦先生が、日ごろから「聴く」ことを大切にしているからこそ実現できる授業だと思います。発言記録を読むと、子どもたちも単純に手品師の行動を「良い」「悪い」と言っているのではなく、295 旭の発言のように、葛藤がにじみ出ている場面がいくつもありました。「ある事柄を自分のもの、あるいは自分に関係があるものとして考えること」を「自我関与」とするならば、子どもたちは自分事として考えているからこそ、このような言葉が出てくるのだと思いました。

また、この「自我関与」に着目した丹下先生の分析も興味深く感じました。分節を追うごとに、出来事から内面へと発言内容が変化していく様子が数値化されており、授業を客観視する一つの方法だと思いました。

誠実とはについて考えることができ、自分の大学での授業も反省する機会を得て、とても良い経験をすることができました。ありがとうございました。

本実践では、子どもたちが、手品師が劇場に出ることの良さについても触れている発言があり、深く考えていると思いました。特に優と旭は、多面的に考えることができています。

187 A 【Y】くんの、約束を守るにつけたしで、男の子との約束を大事にして、人生に一度も無いかもしれない大大大チャンスがきたのに、約束を優先していて、見てくれる人、観客をととても大切にしているなどと思いました。この手品師は、たぶん、あの子の笑顔、男の子の笑顔と、話を聞いて、それが心に残っているのかなと思いました。僕なら、あ、おれなら、どちらでもなくて、男の子をつれて大劇場に行きたいと思いました

342 T もしこっちに行ったらさ、誰かに対しては誠実じゃない？

343 Y 誠実、じゃない？

344 T 色んな人に対して

345 A だって人生に対して嘘なんか何回もつくことあるでしょ。

346 Y 友達に対してはそう。

YとAは、友達に対しては嘘つくこともある人間が、このときは、男の子との約束を守ったという誠実な行動をとったと考えます。一方、下の意見は、男の子の立場に寄り添った意見です。

231 N えっとー、私は、手品師がしたことは、いい、ことだなと思って、理由はー、男の子は、お母さんがいないから、それで寂しい、寂しいからー、男の子を楽しませてあげるの自分しかいないから。

169 Y K えっと、人を裏切らない誠実な心をもった、とてもいい人だと思いました

手品師は、誠実でいい人という感想です。優しい人は、弱者や困っている人を助けるという考え方です。私は、自己犠牲を美德とはしたくありません。時と場合によりけりですが、弱者

だから助けるという発想も、肯定したくありません。

今年の7月の大学の道徳教育論において、「二通の手紙」の模擬授業を行いました。動物園の担当者が、入園終了時間後に小学校3年生ぐらいの子が弟を連れて入りたいと言った時、大人が同伴でないのに入園を許すという話です。その結果、閉園時間になっても帰らず、池で遊んでいたためその担当者が退職するという話です。

担当者の元さんが、いい人、優しい人であるという感想をもった大学生が数人いて、そのまま授業を終えたという苦い経験があります。童話には自己犠牲の美德が語られることが多く、数人ですがそんな童話の読後感のような感想のままにしてしまいました。とても反省しています。

その原因を考えると、最初にいい人、優しい人という感想をもつと、そこから、授業で話し合われたことに耳を貸さず、思考を停止している学生がいるようです。いい人は、自分には関係のない人で、心温まるお話と捉えているような気がしました。池で遊んでいたという事実から、子どもたちの命の危険もあったという事実の重さ、責任についても気づいて欲しいと思いました。

多くの模擬授業でもそうですが、一つ結論を出して安心していることがあります。考え続けることが難しいのだろうなあと思うことがあります。そんな学生を、多面的な議論の場に出したいと思います。来年もう一度「二通の手紙」の実践をして、優しいけれども・・・という感想が出るようにしたいと思います。

本当にこの手品師は、いい人、誠実な人でしょうか。手品師が電話をもらったとき、大劇場に出るか、少年との約束を守るか迷っています。迷っていたら、誠実な人ではないような気がします。でもそれが普通の人間だと思います。人が生きていくとき、そういった様々な迷いがあると思います。片方を裏切ることもあるし、損得抜きで行動することもあります。そういった迷いを抱えながら、生きていくということを伝えられたらと思います。そして、葛藤を経て、手品師は誠実な行動をとったのです。

電話をもらったときの手品師の葛藤についてももう少し時間を割き、多くの子どもたちの意見が出ると良かったのかと思います。葛藤をしたという事実気づかせることが大事だと思います。そうすると、いい人とか誠実な人ではなく、誠実な行動をしたという感想になるかもしれません。

本日のセミナーで学んだ中で重要だと思ったことは、道徳は心の変容か行動の変容かということでした。

道徳では心が育たなければならない、と思っていたが、行動が変わらなければ意味がないし、心が変われていなくても、人間関係の中で自分の行動はこうあるべき、と考えることができ、実際に行動できることがまず必要であった。

用いる題材に応じて、どのように生徒たちの議論が進み、どのようにファシリテートしていくかだが、普通は概ねよい方向に進んでいくだろうが、局所的になっているときや、よからぬ方向に進んだときなど、どのように声かけを行うかは難しい。